

第4回 社会教育委員会議 議事概要

1 議事

(1) 報告事項

- ・令和6年度札幌市教育費予算について
- ・地域学校協働活動推進事業の令和5年度実施状況及び令和6年度実施方針について

(2) 協議事項

- ・子どもの体験活動の推進について

(3) その他

- ・科学館リニューアルセレモニーについて

2 日時

令和6年(2024年)3月5日(木) 10時00分～12時00分

3 場所

S T V北2条ビル6階 教育委員会A・B会議室

4 出席者

(1) 委員(出席10名)

出口委員、片岡委員、小田島委員、小野寺委員、松岡委員、
今泉委員、安田委員、臼井委員、中野委員、榊委員

(2) 事務局(9名)

木村生涯学習部長、大瀬生涯学習推進課長、
釜石社会教育担当係長、鵜沼職員、中原職員、橋本職員
田村野外教育担当係長、国奥職員、三井職員

5 開催形態

公開(マスコミ関係者1名傍聴:北海道通信社1名)

6 会議内容

【配布資料】

資料 1-1：局別施策の概要

資料 1-2：社会教育関係団体への補助金の交付について

資料 2：地域学校協働活動推進事業の令和 5 年度実施状況及び令和 6 年度実施方針

資料 3：子どもの体験活動の推進について

資料 4：札幌市社会教育委員会議議論の記録（令和 5 年度）（案）

(1) 報告事項

① 令和 6 年度札幌市教育費予算について

ア 事務局から、資料 1-1 及び 1-2 を用いて説明。

イ 主な質疑応答

・昨今、いじめの問題が注目されているところですが、スクールカウンセラー活用費、いじめ対策・自殺予防費について、去年と比べてどうなっているのか。大きな黒字のところは前年比の数が出ているが、個々のところは前年比が出ていないので、例えばカウンセラーは全部の学校に置いているのでしょうか。（出口委員）

→所管が学校教育部なので、詳しい説明はできませんが、基本的には支援するスクールカウンセラー、ソーシャルワーカーの人数を増やすということでやっています。学校によっては一人のスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーが複数の学校をもっているということもございますが、今回よりきめ細かく手当をしたと聞いています。ただ、課題としては担い手が限られているということもございますので、その中で人選をして、できるだけ手当をしたと聞いています。（大瀬課長）

→学校数が多いからこれに対応する人はいるのだろうか。不安に感じる場所ですね。（出口委員）

② 地域学校協働活動推進事業の令和 5 年度実施状況及び令和 6 年度実施方針について

ア 事務局から、資料 2 を用いて説明。

イ 主な質疑応答

・資料 2 の参考例として、「活動の様子」がありました。授業内、放課後、休日とあったが、休日に行事を実施する場合に、土曜参観とあわせるとか、土曜参観後の PTA 行事に合わせるとか、いろいろな手立てがあると思いますが、この場合には単独で行われたのですか。あるいはダブリといますか、何かの行事のついでに開催されたのですか。（松岡委員）

→こちらに挙げている活動は単独で行われました。運動会の後ですとか、土曜参観の後とか、そのような行事と組み合わせた事例もあります。

(釜石係長)

- コーディネーター、推進員は、どのような方が担っているのでしょうか。先ほど事例紹介で、元音楽教師の方とか、ジムに人脈があるとかお話がありましたが、どのような方なのでしょうか。(小野寺委員)

→元教員の方、現PTAの方、元PTAの方、子ども会の方、青少年育成委員の方、町内会の方、学校内でボランティアをされている方、学びのサポーターとか、にーごーの講師とか、開放司書をされている方など、何らかの形で学校と関わりがある方がほとんど。属性はバランスよくというか、バラバラです。(釜石係長)

- 幌北小学校でモデル的に取り組んでいる推進員の配置についてですが、この方はどういう経歴の方で、今年度からコーディネーターになられたのか。(出口委員)

→この方は元教員の方です。サタデースクールの時代からコーディネーターをされています。元教員ということもあって、これから札幌市がコミュニティ・スクールを進めていこうとしているということと、学校の事情も分かっている、なおかつ地域の事情も分かっている、ということでモデル的にお願いをしました。(釜石係長)

- 未実施校の先生方が多数研修会に参加されていて、参加して取り組んでみたいという声を聞いて、安心はしているのですが、ただ、未実施校でもしかすると、コーディネーター、人材を自分たちの学校で捕まえて、やっていくかというあたりに難しさを感じてなかなか実施に踏み切れないというような状況はないのかなという心配がある。そのあたりはどうですか。(松岡委員)

→そのような相談はよく受けます。そういうこともあって、おためし地学協働で、カチッと組織体制を固めずに、試しにお付き合いしてみて、そこでうまくいったら続けてみてくださいといったような提案をしていくところです。(釜石係長)

→参加者数から見ても興味関心が高いことが見て取れますね。導入時期にはこういう研修会はしっかりやるんですが、落ち着いたらやらなくなると、あとから加わる人は、そういう知識がないまま取り組むケースがよくあるので。ぜひ、市教委として研修会は続けていっていただきたいなと思います。(出口委員)

→はい、承知しました。ありがとうございます。(釜石係長)

(3) 協議事項

① 子どもの体験活動の推進について

第1回会議にて承認された今年度の協議テーマ（子どもの体験活動の推進）に関して、第4回では「体験活動の教育的価値の啓発」をテーマに
として、体験活動に対して子どもが関心を示さないことや保護者から子どもへ体験活動の良さが伝わっていない（保護者世代の体験不足がある）
こと等を踏まえて、保護者や子どもたちに体験活動への興味関心に働きかける「きっかけづくり」、興味関心に働きかけたうえで必要な情報を届ける「仕組みづくり」、興味関心を深める「仕掛けづくり」における具体策等について熟議いただいた。

ア グループ構成

- ・ 出口委員、今泉委員、小野寺委員、中野委員、榊委員
- ・ 片岡委員、小田島委員、松岡委員、安田委員、臼井委員

イ 各班からのアイデア、意見等

- 保護者や子どもたちに体験活動への興味関心に働きかけるきっかけづくり
 - ・ キッズニアのような形で多様な自然体験ができる機会
 - ・ 保護者の職場を子どもたちが見学する機会
 - ・ 放課後に短時間かつ無料でできる体験活動の機会（ちょこっと体験会）
 - ・ 市有施設や学校等を活用した遊び（かくれんぼや鬼ごっこ等）の機会
 - ・ アニメや漫画等を入口とした事業の実施
 - ・ 街の中心部や繁華街等の人目につきやすいところにちょっとした体験の場（焚火等）を設ける
 - ・ 体験活動を楽しんでいる人の話を聞く機会
 - ・ 大人が体験活動の良さを分かっていないと子どもの体験に繋がらない。まずは大人（親）の興味が湧く取組が必要
- 興味関心に働きかけたうえで必要な情報を届ける仕組みづくり
 - ・ 身近な公園や各区PTAで行われている事業のさらなる周知
 - ・ HP や SNS を活用した広報
 - ・ 事業の情報や口コミ、活動場所の情報等を集約したサイトの構築
 - ・ 学校・保護者間連絡システム（すぐーる）を活用した事業周知
 - ・ 一人親家庭と繋がりをもっている支援団体等との連携
- 興味関心をさらに深める仕掛けづくり
 - ・ 体験活動の共同開催（「体験の日」の設置）
 - ・ 体験活動アドバイザーの設置

- ・スタンプカードなどを作成して活動の達成度や習熟度を測ることでさらなる意欲向上に繋げる

② 札幌市社会教育委員会議議論の記録（令和5年度）（案）

今年度の協議テーマ（子どもの体験活動の推進）については、今回の会議をもって協議を終了することから、事務局でまとめた議論の記録を提示。併せて、年間の協議を通じた総括的な感想等について各委員から発言をいただいた。

ア 主な質疑応答

- ・先日、新聞で教育委員会は来年度（学校教育の重点の中で）人間教育や人権教育を重視していくというような記事を見ましたが、これらについて社会教育としてはどのように関わっていくこととなるのでしょうか？

→教育委員会の中で、特に学校教育の部分で人間教育、人権教育ということを推進していくということですが、それとの社会教育との関わりでいくと、コミュニティスクール、そして地域学校協働活動推進事業、これとの両輪の中で、具体的にどういうふうに位置づけにしていくかということところが大事なところだと考えております。子どもを真ん中に据えて、地域の大人と学校と一緒に協働していろいろな取組を進めていくわけですが、そのコンセプトの一つに、子どもたちをどのように育てていくか、その中核の価値観として、人権とか、人間というのが出てくると思うので、その辺を共有した上で、実際にどういうふうに活動していくのか、その辺の具体的な活動になっていくと、地域の方々の考えであったり、その地域、学校の特性を踏まえて、個性が出てくる部分かと思いますが、そういう形で展開していきたいと考えております。

イ 各委員からの感想等

- ・私の子ども時代は、当たり前前に家族でキャンプに行ったり、地域の方が体験活動を催してくれていたと感じる。今年度の会議を通じて体験教育というものがどれほど大事なものか再認識することができた。（安田委員）
- ・自身の体験がさまざまな生きていく力を強めていって、それが最終的には学校教育と連動してさらに高まっていくものと思っている。社会教育と学校教育、あるいは体験と学習というものをあまり区別せず、人間をつくる意味では相互に連動した活動であるという視点が大切なのではないかと感じた。（臼井委員）

- ・学校関係者以外の方の色々なお話を聞くことができ大変有意義な会議だったと感じた。今後学校が関わっていくこと、学校が担わなければならないことを再認識することができたと思っている。学校現場では、自然体験に関わらず、文化的な体験も時間や予算等の関係で減ってきており、これらに関しても改めて考えていかなければならないと感じた。（小田島委員）
- ・色々な事情で学校や地域でホンモノに触れる体験の機会が少ないと感じているが、かつては学校現場にいて、現在は芸術の森美術館や国際芸術祭などで解説のボランティアをしている身からすると、こうした機会が子どもの成長にとってやはり大切であるということを感じた。（松岡委員）
- ・体験活動の推進にあたっては、学校教育と社会教育の両輪で進めていくことが大切であり、いずれにしても主人公は子どもであること強く実感した。子どもたちのためにこのような場で時間を作って話し合うこと自体が貴重であり、未来を生きる子どもたちのために自分に何ができるのかということをも改めて考えながら今後も活動していきたいと感じた。（小野寺委員）
- ・PTAにおいても色々な課題等を抱える中で悩むこともあったが、こういった会議の場でPTAの話題も挙げていただき少し勇気ももらった。まだまだできることがあるということ、それから現在実施していることをしっかりと継続していこうという気持ちにさせていただいた。（中野委員）
- ・社会教育において重要なこととしては、大人も子どもも豊かに生きていくためにどのようなことを考えて実行していくのかだと考える。色々な体験を通じ共感してつながっていく、その「つながりづくり」をどう構築していくのかを考えてきた。より人間らしく生きるための道筋を今後も一緒に考えていきたいと思う。（榎委員）
- ・普段の仕事の中では虐待やDVに関係する家庭に接する機会が多いが、そういった方たちが自分達の知らない文化や体験に触れる機会はとても少ないと感じている。自分達のことでも精一杯で中々一歩を踏み出せず、大人になっていく中で苦しい期間が長く続いている方達も多くみているなかで、知らない文化や体験に触れる機会をどう作るか、そうした機会の中で居場所であったり、自分らしく生きるきっかけづくりの1つとなれば良いと思いながら参加させていただいた。（今泉委員）
- ・私の専門は教育学なのだが、物事を考える際に歴史の流れで考えると

いうことをしている。例えば、戦後公選初の市長となった高田市長が戦後の立て直しの時期に、現在では日本で公設の児童館としては最も古い中島児童会館を作った時の経緯を調べたことがあり、高田市長自身が学校現場の出身でもあったことから、教育に力を注いだ歴史があった。学校教育も社会教育においても色々と課題が多い中、それらを前へと進めるためにも、重要なことは学校・家庭・地域が一丸となって手を取り合っていくということに尽きると感じている。本会議は、札幌に生まれ、札幌で育って良かったと思えるように、行政のみならず全市一体となって考える良い契機となったと考えている。今後も私の立場で何かできることがあれば良いと考えている。（片岡副議長）

・先日念願だったシマエナガに会うことができ、それ以来野鳥に対し一層興味が湧いているが、やはり写真ではなく実物を見ることでさらに可愛さを感じられるといったこともある。その他、冬山登山では何が楽しいのかと聞かれることもよくあるが、頂上に登ったときに見られる景色などは何ものにも代えがたいものがある。そういった意味では本物に触れることの良さというものは体験した人にしか分からないものだと思う。やったこともないのにできないと言う子どもや大人が多いと感じるが、できるかできないかは別としてまずはやってみることが大切で、そんな気持ちを子どもたちにもっていただきたいと思う。そのような気持ちを育むためにも自然体験をはじめ、職業体験など様々な体験の場を充実させていくことが重要であると会議を通じて改めて認識した。（出口議長）

(4) その他

次回会議の日程調整については、後日事務局から連絡。

また、生涯学習推進課が所管する青少年科学館が4月1日からリニューアルオープンすることに伴い、指定管理者がオープン前日の3月31日にセレモニーを実施することを企画しており、このことについて指定管理者から社会教育委員の皆様をご招待したい旨、連絡を受けていることについて案内し、会議終了後に案内状を配布。